

家庭教育への提唱

家庭は、子供にとって基本的な生活習慣を身につけ、他者への思いやり、自立心、自制心を育む重要な役割を果たすものです。その上で、子供たちは、地域社会や学校において、人と人とのつながりを感じながら「生きる力」を養う基本を身につけていきます。

私たち「西宮市家庭教育振興市民会議」は、「夢はぐくむ教育のまち西宮」を実現するために、家庭・地域・学校が連携し、大人が責任ある姿勢をもって分け隔てなく子供と接することが、家庭教育への支援につながると考え、市民が一体となって取り組んでいく『重点目標』と『5つの実践目標』をここに提唱します。

平成 23 年（2011 年）2 月

西宮市家庭教育振興市民会議

<重点目標>

思いやりのある西宮っ子を育てよう

「思いやり」とは、相手の身になって考え、その立場を尊重することです。このことは、命を大切にすると人権教育の基盤であり、かつ平和で幸福な人間社会形成の基礎でもあります。西宮の子供たちを思いやりのある優しい人に育てるためには、子供が安心して生活できる環境が必要です。

「西宮市家庭教育振興市民会議」では、家庭・地域・学校が連携する取組みとして「思いやりのある西宮っ子を育てよう」を『重点目標』と定め、具体的に取り組んでいく指針となる『5つの実践目標』を選びました。

<5つの実践目標>

○ 育てよう 優しい心と がんばる力

わたしたちは、他者を思いやる心と、自立心・自制心を育むために、家庭での教育を大切にします。

○ 声かけよう おはよう ありがとう ごめんなさい

わたしたちは、あいさつを交わし、感謝の言葉を伝えることで、家族・友だち・地域の絆を深めます。

○ 見守ろう よその子 我が子 区別なく

わたしたちは、家庭・学校・地域が連携し、子どもを見守り、支えています。

○ 習慣づけよう 早寝 早起き 朝ごはん

わたしたちは、子どもの意欲・体力・気力を充実させるために、
基本的な生活習慣を大切にします。

○ 外に出よう 元気に遊んで 友だちいっぱい

わたしたちは、子どもが様々な人との交流を通して、
社会性が育める環境を大切にします。

西宮市家庭教育振興市民会議（以下「市民会議」という。）は、家庭の本来果たすべき役割を見つめ直し、地域・学校・行政が一体となって取り組める方策を研究し、家庭の教育力の充実を支援することを目的として昭和 56 年（1981 年）に青少年育成に関わる関係団体で発足しました。昭和 58 年（1983 年）に『思いやりのある西宮っ子を育てよう』を重点目標とし、次の 5 つの項目を実践目標として取り組んでまいりました。『1. 西宮っ子は、すすんであいさつをします。 2. 西宮っ子は、乗り物の中ですすんで立ちます。 3. 西宮っ子は、交通ルールや社会のきまりをよく守ります。 4. 西宮っ子は、公園や広場、学校などを美しくします。 5. 西宮っ子は、すすんで読書やスポーツに親しみます。』

しかしながら、今日、家庭や子供を取り巻く環境が大きく移り変わる社会の変化に対応して、市民会議では、新たな実践目標への見直しについて、平成 21 年度（2009 年度）から協議を重ね、平成 23 年（2011 年）2 月に、新たな実践目標を提唱しました。

今後は、保護者、学校、地域の各種団体、行政が連携して「総がかりの教育」として、その啓発と実践に取り組むことが大切と考えております。